

vol.28 | 2023年  
12月 組合だより

# 森と、杣と。

Mori to Soma to



高島市森林組合

# 第18回 通常総代会を開催しました

令和5年8月26日午前10時より安曇川公民館ふじのきホールにおいて、第18回通常総代会を開催しました。当日は18名の総代が出席され、書面決議権行使書が137名から提出されました。来賓には、滋賀県西部・南部森林整備事務所高島支所の竹内支所長、高島市農林水産部の長瀬部長にご臨席賜り、それぞれご祝辞を頂戴しました。議事は、朽木の上田謙治議長の進行のもと、下記議案について議論質疑が交わされ、賛成多数を得て全ての議案が可決承認されました。

## 提出議案

- 第1号議案 令和4年度事業報告、貸借対照表、損益計算書、剰余金処分案、注記表及び附属明細書の承認について
  - 第2号議案 令和5年度事業計画及び損益計算書承認について
  - 第3号議案 令和5年度借入金最高限度決定について
  - 第4号議案 一組合員に対する貸付金の最高限度及び貸付金利率の最高限度決定について
  - 第5号議案 令和5年度諸手数料率の決定について
  - 第6号議案 転貸資金の取扱手数料率の決定について
  - 第7号議案 余裕金の預入先決定について
  - 第8号議案 令和5年度役員報酬の決定について
  - 第9号議案 定款附属書森林組合総代選挙規程の変更について
  - 第10号議案 製材加工業の事業譲受について
- 附帯決議 本提出議案ならびに関係資料に字句等の修正を必要とするときは、これが修正を組合長に一任する。



## 貸借対照表

令和5年5月31日 現在 (単位: 千円)

科目	金額	科目	金額
現金預金	217,607	預り金	15,396
売掛金・未収金	37,041	買掛金・未払金等	41,864
棚卸資産	969	短期借入金	30,000
受託造林立替金	49,173	<b>流動負債計</b>	<b>87,260</b>
その他	6,678	農林漁業資金借入金	0
		退職給付引当金等	42,284
		<b>固定負債計</b>	<b>42,284</b>
<b>流動資産計</b>	<b>311,468</b>	<b>負債合計</b>	<b>129,544</b>
有形固定資産	29,553	出資金	50,629
無形固定資産	0	法定準備金	73,844
外部出資金	21,325	積立金	75,047
農林漁業貸付金	0	当期末剰余金	33,329
預託金	47		
<b>固定資産計</b>	<b>50,925</b>	<b>純資産合計</b>	<b>232,849</b>
<b>資産合計</b>	<b>362,393</b>	<b>負債・純資産合計</b>	<b>362,393</b>

## 損益計算書

令和4年6月1日～令和5年5月31日 (単位: 千円)

科目	金額
事業総収益	239,899
事業総費用	155,380
<b>事業総利益</b>	<b>84,519</b>
事業管理費	77,789
<b>事業利益 (損失)</b>	<b>6,730</b>
事業外収入	7,912
事業外費用	3,260
<b>経常利益 (損失)</b>	<b>11,382</b>
特別損益	△ 1,282
<b>税引前当期利益 (損失)</b>	<b>10,100</b>
法人税・住民税等	186
前期繰越剰余金	0
<b>当期末未処分剰余金</b>	<b>9,914</b>

## 令和4年度 剰余金処分案

(単位: 千円)

科目	金額
当期末未処分剰余金	33,329
法定準備金	2,000
任意積立金	31,329
<b>次期繰越剰余金</b>	<b>0</b>

## 令和4年度事業の概要

### ○安定的な組合経営を実現

収益のマイナスが続いたかつての経営を立て直すため、事業進行管理の徹底、新しい技術や設備の導入、森林施業手法の見直しなどに取り組みました。その結果、近年ではプラスの収益を続けており、安定的な経営を実現しています。

### ○木材の取り扱い量が過去最大

令和4年度の木材搬出量は過去最高の13,194m<sup>3</sup>となりました。これに加えて、これまで現場に放置されていた枝葉の需要が高まっており、その搬出量を合わせると、14,000m<sup>3</sup>を超える取扱量となっています。

### ○公共事業と連携した地域課題を解決する社会的な貢献

成長した立木が強風や大雪により倒木する被害が多発しています。この倒木による道路の通行障害、架線への被害による停電や通信障害を防止するための行政による予防伐採について、当組合の経験や技術を生かしています。

ロシアによる軍事侵攻や急激な円安の進行による物価高など、社会情勢は極めて不透明であります。引き続き集約化施業により、安全第一に森林整備を推進し、変化する社会情勢に対処すべき安定した組合経営をめざします。

## 出資口数

(単位: 口)

資格区分	前期末	当期増加	当期減少	当期末
正組合員	212,634	85	908	211,811
准組合員	41,339	20	27	41,332
<b>合計</b>	<b>253,973</b>	<b>105</b>	<b>935</b>	<b>253,143</b>

## 令和5年度事業の概要

統括		健全な組合経営を進めるためのさらなる業務改善
		外部有識者の指導による役職員の意識改革と資質向上 林業事業体および直営森林施業係の技術力向上 地域内の森林の実態調査と計画的な森林経営を行うための境界明確化および集約化施業の推進 県や市などの公共団体をはじめ民間事業者や個人が発注する森林整備事業の積極的な受託 地域の森林や林業の付加価値の創造と次世代への継承 木材加工や流通、販売にかかる業界との連携による収益性の向上 先進地の取組みなどの研究と組合として管理・経営を担う体制づくり
指導部門		広報誌「森と、柚と。」の発行 組合組織のコンプライアンスや能力向上を図るため、外部有識者の指導による適正な事業進捗管理 研修会や講習会への積極的な参加
販売部門	木材販売	搬出される木材の的確な造材や選木と、組合員および組合の利益の向上 12,000m <sup>3</sup> /年を超える木材の搬出 未利用材部分の販売による所有者への利益還元
	特用林産	特用林産事業施設(保坂)の活用によるシイタケ菌床生産業務の外部委託化
森林整備部門	森林整備	森林経営計画に基づいた施業の集約化と搬出間伐の推進 市や県等の公共事業への積極的な取組みと、造林や間伐等の森林整備事業の確保 森林環境譲与税の活用に加え、航空レーザー測量データを活用した迅速な境界明確化手法の試験的实施 搬出間伐や作業道開設等を直営森林施業係で行う体制の強化 車両系システムに加え、架線系システムによる森林整備の検討など、搬出システムの多様化と技術力の向上
	利用	自立的な木材利用ビジネスモデルの一環として、市内外事業者との連携による未利用材の有効活用 地域産木材利用を図るための誘導施策の積極的な活用と、森林所有者への周知



## 高島市森林組合 第7期 総代名簿

総代任期：令和5年10月1日～令和8年9月30日 3ヶ年間

<b>マキノ地域 31名</b>	吉井 正弘	中西 與志治	林 典男	清水 清
土肥 喜一郎	中井 正信	宮川 銃藏	林 又文	沢井 二十一
田中 正章	蜜口 光男	小川 昌和	澤井 幸一	清水 信太郎
島田 浅司	栗田 正富	宮川 仁史	山本 紘一	山本 賢司
磯野 久四郎	杉本 正明	足立 憲一	井口 勇	梅本 健一
前田 茂一	杉本 豊文	栞原 敬二	井口 浩治	西川 明夫
土守 恭治	松宮 久夫	三田村 治夫	八田 和宏	今井 新太郎
久保井 五男	平松 伊三雄	<b>安曇川地域 17名</b>	西川 哲	澤田 宏一
岸田 明正	橋本 恒夫	栞原 長市	西川 利男	栗本 慶一
杉本 喜代司	岩淵 篤	竹脇 正道	久保 弘	鳥本 善彦
野崎 己和	中村 助信	北條 助三郎	高城 伸司	高木 明
青谷 藤代一	松本 和寿	東村 芳伸	中村 正彦	長尾 善雄
谷口 太郎一	谷本 良平	入江 正之	山田 清孝	久保 美佐夫
里田 護	森脇 徹	入江 健夫	富永 眞生	小坂 一郎
木下 孝次	澤本 昌孝	入江 正幸	石倉 孫弘	田中 克己
高屋 博之	横井 秀雄	平井 清次	仁賀 定夫	畑 栄次
小川 義雄	杉本 保	井上 徳司	山田 健史	坂本 秀樹
峯森 清三郎	中井 孝夫	入江 輝美	村谷 彌年	藤井 長康
西澤 長雄	沢田 常三	中村 丈夫	白崎 敏男	上藤 吉裕
平山 久良	谷村 延彦	川島 耕一	大辻 清隆	宮川 清
伊吹 正保	善積 継夫	平井 勲	横井川 長輝	酒井 高康
栗本 龍郎	清水 保彦	北村 俊	<b>朽木地域 55名</b>	平井 久司
久我 敬宗	松本 克己	西澤 忠史	山下 與資勇	前田 康弘
河野 秀雄	山崎 博一	清水 秀雅	石田 茂夫	碓 勇
北谷 三郎	岡田 守	清水 久仁男	川島 博明	柳生 貞明
篠原 政継	吉田 美好	<b>高島地域 38名</b>	嶋崎 辰也	奥田 治
円水 康広	森 正次	八田 康治	上田 清秀	吉田 貴弘
小多 幸男	中河 宏	西川 忠昭	村田 平幸	沢井 久美
狩野 兼司	三田村 喜作	林 重作	本村 明彦	新保 正隆
大村 利一	古谷 晴彦	福原 繁孝	吉田 清吾	松本 寛
前河 博太郎	古谷 茂治	多湖 章郎	澤村 光雄	宮本 彰
上田 藤男	大森 六己	兼田 伸次	安本 俊夫	森本 正則
<b>今津地域 49名</b>	山口 茂和	万木 英夫	繁田 登	宮本 清茂
木原 清市	木下 司津夫	兼田 雅信	森本 多一郎	炭本 輝夫
崎野 充博	藤原 長栄	廣部 彰	山口 準	
有本 義治	水艸 治樹	石田 正司	平楽 忠	
橋本 正之	北條 政良	和田 治	上田 謙治	
宮田 良治	森本 八十夫	岸田 寛	清川 太一	
栗田 三次	角川 正将	岸田 肇	中村 佐次郎	
井上 二郎太夫	<b>新旭地域 10名</b>	岸田 伸一	井上 岩夫	
中山 忠雄	松田 劼	岡本 源一	杉原 孝治	
升田 鏡利	八田 洋子	大塚 文廣	澤田 岩一	
栗田 嘉弘	木村 晃	大塚 孝	川村 長太郎	
				<b>以上200名</b> (敬称略・順不同)

## NEWS

## 森林組合の子会社を設立し、製材所の経営を継承しました

組合とこれまで取り引きのあった製材所からの申し出により、令和5年11月1日より組合の子会社として製材加工事業を継承することとなりました。

戦後植林されたスギやヒノキが生長し、建築用材や加工品として多方面へ出荷しています。現在は組合が伐採した木材を原木丸太として市場や加工工場へ流通させていますが、さらに付加価値をつけることで組合員の皆様へ利益を還元することが求められています。これまでその対策を迫られていましたが、このたび木材販売先として取り引き実績のある、大津市衣川の株式会社伊藤源より製材加工事業を譲渡したいと申し出があり、引き受けることとしました。そこで、新たに子会社として株式会社 ITOGEN を設立し、木材の製材加工、販売事業を引き継ぎます。

これにより、木材市場へ出荷していた原木丸太を直に製材加工へ売り渡すことができるようになり、流通経費を削減し、組合と組合員にとっても利益を生むこととなります。また、木材を建築用材や加工材料として利用する工務店や加工工場のニーズを直に林業の現場へ反映できることとなります。これまでは伐採した木材をプロダクトアウトにより出荷していましたが、川下のニーズに応じたマーケットインにより伐採や造材することで、森林資源に付加価値をつけ、更なる利益を生むことにつながります。(敬称略)



## REPORT

マザーレイクルーズ2023  
～びわ湖で学び、ふれあい、つながる絆～に参加しました

2025年の大阪・関西万博に向けたイベントとして開催された「マザーレイクルーズ2023」に参加しました。本イベントは、ピアンカの船上で、「水」をテーマに琵琶湖の過去・現在を見つめ、その魅力と価値を未来につなぐことを目的に開催されました。第一部では三日月知事のほか、歴史小説家・新村翔吾さんから滋賀県ゆかりの有識者が登壇。それぞれの立場で「水と〇〇」というテーマでトークショーが展開されました。組合は第二部の「MLGsつながる交流会」に登壇。MLGs(マザーレイクゴールズ)とは、琵琶湖版のSDGsとして、2030年の持続可能な社会の実現に向け、滋賀県が独自の13の目標を設定したものです。今回、水と森林を取り巻く文化的背景として、安曇川流域に広がる思子淵信仰を紹介。加えて皆伐地で広葉樹を植樹している事例も紹介し、参加者からは「山を守る地道な方々が湖を守っている」と期待の言葉もいただきました。

参加各団体は、それぞれの活動を表した川柳を発表しました。組合の一句は右記のとおりです。



『ひとしづく その一滴が いのちの根』

## REPORT

## 林業研究グループ研究発表会で県森連優秀賞を受賞しました

研究名 「安価な獣害対策の模索」

10月6日に開催された林業研究グループ研究発表会に清原課長と俣野主任が参加し、県森連優秀賞を受賞しました。組合では植栽した苗木を獣害から守るため、平成31年度から複数の獣害対策を試験的に実施しています。面的に防護する防護柵や単木で防護するネットなど補助金の対象となる造林事業の施策はありますが、豪雪地である当地域においては設置後のメンテナンスに非常に手間がかかり所有者の金銭的な負担が多いため、より安価な獣害対策を模索しています。近年は植栽木の成長点にクリップ状の資材を付ける「鹿よけ君」や苗木の添え木として竹杭を設置する「食害防止杭」などを試験的に実施しています。これからも地道な活動を続け、その成果を組合員へ還元していければと考えています。



## REPORT

つぶく たかし  
津布久隆さんの講演会「広葉樹への誘い」を開催しました

8月30日、栃木県矢板森林管理事務所林業経営課の津布久隆さんの講演会「広葉樹への誘い」を組合にて開催しました。津布久さんは平成19年度の林業普及指導職員全国シンポジウムの発表「美しい森林の実現に向けた『17年の森林づくり』の推進」で最優秀賞を受賞され、主に広葉樹の活用に関する本を多数出版されています。

今回の講演では、伐採搬出した広葉樹の大半がチップになっている現状から、昔の暮らしを例に、広葉樹用材の利用方法や流通経路によって価値が変わるということをお話いただきました。今後組合でも広葉樹材の活用についての情報を収集し、より価値のある木材として流通できるよう研究を進め、手入れが必要な広葉樹林では、山ごとの植生や状況に合わせた施業を行っていきます。



## REPORT

## 岡山県新見市での森林・技術視察プログラムに参加しました

奥山での森林整備のひとつの選択肢として、架線系搬出システムによる列状間伐を学ぶため、岡山県新見市にある近畿中国森林管理局森林技術・支援センターの森林・林業技術視察プログラムに参加しました。同センターでは民有林への林業技術普及・支援をしており、先進的に1990年頃から列状間伐を実施しています。加えて針葉樹林への広葉樹導入技術・針広混交林造成の試験地を視察しました。

列状間伐と定性間伐を組み合わせた複数の林分と無間伐林分の経過と現状をすぐ近くで比較することができ、現場では作業が単純になることで低コストになり安全性も高くなるとのことでした。今後は列状間伐を実際に施業している事例について、施業上のポイントや課題を学び、次のステップにつなげていきます。



(上) 伐採当時 列状間伐を行った林分

(下) 視察時 ※同一箇所

組合職員の意外な一面を紹介します

## Vol.5 職員の横顔



今熱中してる事を紹介します。その前に僕は熱しやすく冷めやすい性格です。数年前、同僚にイカ釣りに誘われ、竿やリールなど、数万円の道具を揃えて、アオリイカ一杯を釣りました。しかし家族3人の食卓には少なく、妻がスーパーで買い足して刺身にしてくれた結果、どれが釣れたものか分からなくなりました(笑) それからイカ釣り熱は冷めてしまいました。そんな僕ですが意外と長続きしている事があります。それは息子と近所の川で捕ったタナゴの飼育です。このタナゴはアブラボテと言う種類で、気性が荒く泳ぐのが速い種です。初夏にはオスはマーブル模様の婚姻色が身体にでてとても綺麗です。水槽の水草や石、流木などは全て近所の川で取りました。ちなみに流木は山桜の根っこです。タナゴを見ると、とてもいい癒しになり仕事であった嫌な事などがすぐ忘れます。忘れない事もありますが... (笑) 写真に写っている観葉植物は妻の趣味です。息子はテラリウムに興味を持ちましたが、水をあげず枯れてしまいました。僕と同じく熱しやすく冷めやすいようです。今後の目標は、預かった命を大切に冷めずにタナゴを育てていくことです。



係長 業務課木材管理係  
島本 達しまもと とおる

## Colum

今津町史  
第四巻  
資料編より

# 平野部の人々と山林

## 「荒谷山の共有財産」

水の恵みの源流は、天然の貯水池である山林に依拠している。琵琶湖に注ぐ石田川の水源地は、今津町の山間部にあり、流域の平野部に住む人たちは、山を共同管理している。

毎年7月、荒谷山財産区の虫干し会が行われている。財産区管理委員7人、保護係3人、構成地域の区長らが参加する。例年は今津北コミュニティセンター(平ヶ崎)の二階で行っていたが、平成14年(2002)は今津上コミュニティセンター(下弘部)で実施された。



荒谷山財産区虫干し会の共有文書の封印

午前10時から約220点の共有文書が封印をとかれ、畳に広げられて虫干しされたあと、午前2時ごろ再び役員によって封印される。保護係は、印を押して封に責任を持つ。

この荒谷山財産区を構成するのは、梅原・大床・岸脇・井ノ口・中ノ町・辻・浜分(石田・領家・地頭)・川尻の各集落である。かつては北生見も参加していた。荒谷山とは、川上庄西部山岳地帯で、近世は、黒木炭を焼いて出荷しており、江戸時代以来の炭焼きに関わる角川・天増川との山相論の文書などが、共有文書の中に大切に保管されている。荒谷山財産区の会議は、年末と3月にもあるが、江戸時代からの歴史と権利を示す文書の虫干しは、地域の結合を定期的に再確認する儀礼でもある。

## 「くい打ち」

荒谷山財産区の境界に打つ目印の杭は、6年に一度、子と午の年に替える。時期はだいたい4月であるが、河内山財産区、角川、保坂といった境を接する相手が立ち会って確認しながら作業をするので、それぞれの境界ごとに一日かけて杭を打つ。前回に打った杭が寝ん間(倒れない間)に打ち替えるので、子午の年に打つともいう。

6年前の杭だけでなく、12年前の杭が腐らずに残っていることもある。檜の角材を担いで山に登るが、最近はある程度までは、林道を自動車で行くことができるようになった。

今津町史第四巻資料編より引用

## 「今も続く、虫干し」

ここで紹介した虫干しは現在も続けられています。今も毎年7月下旬に、公民館などの公共施設において役員十数人が集まり、約220点の古絵図や古文書類が木箱から出され、約半日間広げられます。この虫干し儀式を通し、地域に根付く文化や伝統を今も引き継いでいるのです。



2021年7月28日に行われた虫干し会の様子



## 「緑の雇用」事業で 研修を受けています

組合では、森林施業係の新入職員は3年間「緑の雇用」に通います。「緑の雇用」とは林野庁による研修事業で、未経験の方でも林業に必要な技術や幅広い知識を学べ、キャリアアップを支援する事業です。現在、1年目が2人、2年目が2人の計4人が林業作業士（フォレストワーカー）研修に通っています。今年度の研修は全て終了し、それぞれが研修で学んできた知識や技能を活かし現場で活躍しています。

また今年度は甲斐課長、島本係長、俣野主任が現場管理責任者（フォレストリーダー）研修を修了しました。今後、新たな職員や年次の浅い職員へ万全の体制で指導を行い、より強い林業集団を目指します。



### 1年目の研修を終えて

1年目の研修には、野崎技師と向井技師が参加。チェーンソーを使った伐木等の業務ができるようになり、搬出間伐の現場で立木の伐倒、倒した木々を刻む造材作業を行っています。

#### 向井優佳 技師

伐倒することに少し恐怖心がありましたが、細い木から練習させてもらったことで、最近では徐々に恐怖心が薄れてきました。

### 2年目の研修を終えて

2年目の研修には、ダグラス技師と高岸技師が参加。林業機械の運転技術等を学んできました。林内運搬車「フォワーダ」、材木運搬車「ヒアブ車」を乗りこなし、現場から土場への木材運搬業務の核を担っています。

#### ヒートン・ダグラス・リチャード 技師

フォワーダを運転するようになり、木材を降ろす場所の配慮など、全体的な現場進行を見据えた作業を心がけるようになりました。



## 林業の担い手、 募集中。



木材の伐採や搬出、運搬は、組合の職員による直営作業とともに、民間の林業事業者へも業務を委託しています。林業が間伐搬出から主伐再造林へ移行することにより、その作業量が増えていることや、作業員の高齢化による引退などにより、担い手の不足が課題となっています。今後も増加が予想される林業作業を確実に担っていける体制を構築することが地域林業の持続的な運営には必要です。

ついでに、林業従事者の多様な働き方を提案し、地域林業の安定的な運営を具体化するために、職員を募集しています。

「フルタイムでしっかり働きたい」「パートタイムでマイペースな働き方を実践したい」「林業の現状や自分の適性を知るためにインターンにより経験してみたい」など、自らのキャリア形成に合わせて募集します。

フルタイム職員

パートタイム職員

有給インターン

詳しくは、当組合HPをご覧ください。

# 河川の変化から見る、 未来の森づくりの可能性

く かつての景色を求めて く

vol.1



(左)中川榮さん (右)西川明夫さん 朽木生杉にて

琵琶湖へ注ぐ100を超える河川の中で、最も多い流入量を誇る安曇川。毎秒16トンを超える流量を保つ理由は多雪地域であることのほか、その流域の多くが豊富な森林に包まれていることです。「近畿の水がめ」とも称される琵琶湖へ大きな影響を与える安曇川とその水流を支える森林。それらを取り巻く環境の変化から、今後の森づくりの可能性を考える連載企画。「河川の変化から見る、未来の森づくりの可能性」をテーマに2回にわたってお伝えします。Vol.1は、針畑川の源流部に程近い朽木生杉地区で暮らされているお二人にお話を伺いました。

## 源流域の現状

安曇川は京都市左京区大原百井峠付近から始まる本流に、支流の針畑川、北川、麻生川が加わり、総延長57.9kmの長旅の末に琵琶湖へと流れ込んでいます。これら支流の3本の河川はそれぞれ、針畑川は生杉・小入谷、北川は能家、麻生川は木地山とそれぞれ朽木エリアの源流部を起点としています。これら源流部である山間部も、戦後の国策として行われた拡大造林つまりスギやヒノキなどの針葉樹を中心とした植栽事業の例外ではなく、約60年以上を経た今、木々は成熟し、伐採し利用する時期を迎えています。



琵琶湖へと流れ込む安曇川

## かつての様子

安曇川の支流のひとつである針畑川の源流部にほど近い朽木生杉地区で長年にわたり、川や森を見てこられた中川榮さんと、同地で幼少期を過ごされ、現在は郷土史誌探究家として活動される西川明夫さんにお話をお聞きしました。

—まず初めにお二人と針畑川との関わりについて教えてください

**中川：**昔はまさに自然のままの川で、今より川幅は狭く、その分水量が多く、水深は深く魚の寝床がたくさんありました。ミャク釣りをするなど、子どもの遊び場でした。

**西川：**確かに当時の川はもっと水量が多かったと思います。今の3倍ほどあったのではないのでしょうか。川には淵がたくさんあり、ウナギやイシビシヤ（カジカ）、アマゴなど今よりずっと多くの種類の魚がいました。大きなイワナもよく釣れました。しかし1960年代に大きな台風が重なり、川に堤防が出来始めました。環境が変わり始めた節目と記憶しています。

—どのように川の様子は変化していきましたか？

**西川：**川に堤防ができ、河原はコンクリートで固められていきました。当時は、大雨が降ると集落は水に浸かり、

大人たちがその始末に追われている姿を見ていましたので、川が整備されていくことは止むを得ないという思いでした。しかし今となってはコンクリートで固められて、自然の淵など魚たちの棲家がなくなってしまった川は、生き物たちにとっては棲みにくい川となってしまっているようです。

—当時、河川周辺部の植生はどのようなものでしたか？

**中川**：生杉の在所辺りの河原の植生は今と大差ないと感じます。大きな木もありましたが、木漏れ日が注ぎほんのりと明るかったと記憶しています。ただ今は、奥へ行くほど暗いですね。

—今後、どのような川になっていって欲しいですか？

**中川**：自然の環境の中で山は無くしてはならない存在です。無理に変化を加えることなく、未来に繋いでいってほしいですね。

**西川**：自然の岩を使って、河岸に広葉樹を植え、魚が棲みやすい川になって欲しいです。昔の光景へ戻そうということです。嘉田元知事がおっしゃった「上流は下流を思い、下流は上流に感謝する」を体現したいですね。あと、若者が行き交う川（山）になってほしいですね。そうすると地域に活気が溢れ、そこには雇用も生まれますから。

## 問題点

お二人の話をもとに、現在の河川と森林が持つ問題点や課題を考えてみます。

### ○ 防災の観点から

森林の持つ多面的機能のひとつとして水源涵養機能があります。大雨が降った時に洪水を防止・軽減する、またはしばらく雨が降らなくても安定的に水を流出してくれる機能です。手入れが行き届いておらず下層植生が乏しい人工林ではこの機能が劣り、加えて河川周辺部の田んぼとして使われていた土地にも植林されているため、本来水田が持つ貯水機能も失われています。結果、多量の雨が降った時に水源涵養機能が十分に働かず、一気に河川へ水が流出。雨天時にしばしば見られる濁った水流から分かるように、土砂流出も合わせて起こっていると考えられます。



河岸に人工林が広がる針畑川(朽木中牧付近にて)

### ○ 生物多様性の観点から

川の生態系が貧相になった理由は定かではありません。しかし、西川さんの話にあるように土砂で濁った水が淵を埋め、生き物の住処がなくなってきていることはその理由の一つではないかと考えられます。またこのような土砂で濁った水流を引き起こす原因は、上流部での森林環境が大きな影響を与えていると考えられます。加えて極端に増水した水流は、植物が生息する河岸を削り、その生活環境を侵食しています。

### ○ 風景・風土の観点から

昔の河岸には広葉樹が生え、適度な木漏れ日が差し込む光環境で、春には新緑、秋には紅葉が楽しめる風景や風土がありました。今の源流部のように薄暗く、単一樹種の背の高い木々が茂る森林とは異なる景色でした。集落を流れる河川周辺の明るく見通しの良い森林の風景は、地域の人々の心の拠り所にもなっていたのではないのでしょうか。

## 未来の森づくり

森林から河川へと水流を通して繋がる課題の解決に取り組むため、組合ではまず河川にほど近いエリアの森林の適切な管理を目指します。ここでいう適切な管理とは、手入れが必要な森林の所有者を特定し、適度な間伐により光環境が豊かな森林を作ること、また必要な場所では主伐（皆伐）し、新たな樹々を再造林（植栽）することで、将来へ繋いでいくことを指します。再造林する樹種は、花粉症の要因とされる花粉の発生を抑えた少花粉スギやヒノキのほか、それぞれの地域の特色や個性を活かした地域性苗木など選択肢は様々。通り一辺倒の植栽ではなく、地域の方々とも意見交換を行い、その土地の風景や風土をもとにした森との関わりを大切に取組んでいきます。



少花粉杉



地域生苗木(広葉樹)



次号では河川の流域エリアを中心に、森づくりの実際を紹介します。

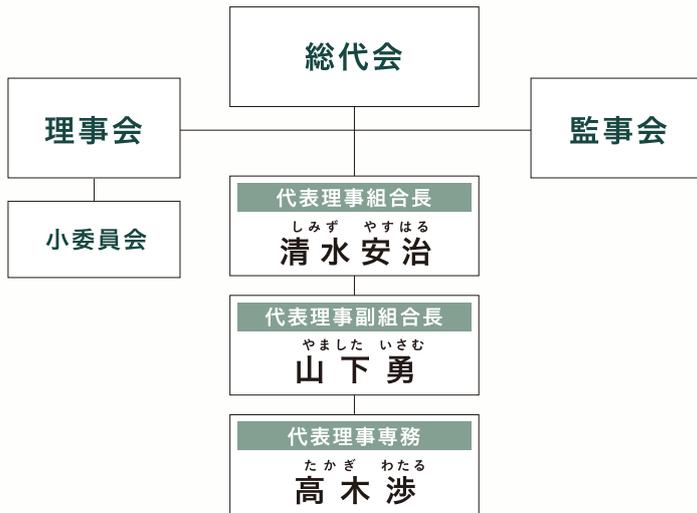
# 高島市森林組合組織図

令和5年12月1日現在

常勤理事	： 1名
非常勤理事	： 12名
非常勤監事	： 3名
合計	： 16名

職員（アルバイト含む）	
男性	： 11名
女性	： 6名
合計	： 17名



<b>業務課業務内容</b>
受託造林、作業路開設、施業集約化、森林経営計画、加工品販売、病虫害防除、素材販売、運搬、県営林・市有林・造林公社事業、諸請負事業、安全管理指導など
<b>総務課業務内容</b>
役職員の福利厚生・労務管理、会計、庶務、組合員管理、財産管理、受託造林精算事務、森林保険事業、購買事業、一人親方事務など 椎茸菌床生産の指導管理

業 務 課		
課長 きよはら たけし 清原 猛 史		
森林計画係	森林施業係	木材管理係
係長(兼務) きよはら たけし 清原 猛 史	係長(兼務) きよはら たけし 清原 猛 史	主任 またの ながゆき 侯野 長 之
主任(兼務) またの ながゆき 侯野 長 之	技師 くるみ よしたか 来見 嘉 卓	技師 ヒートン・ダグラス・リチャード
主任 かつらだ こうた 桂田 孝 太	技師 たかぎし りゅうき 高岸 隆 己	技師 のぎき しょうじ 野崎 将 司
技師 きたおか こうた 北岡 孝 太	技師 むかい ゆうか 向井 優 佳	嘱託職員 いたう かずゆき 伊藤 和 幸
技師 たかやなぎ みさと 高柳 美 里		

総 務 課
課長 かい ふみお 甲斐 文 男
総務経理係
係長 しむら けいこ 志村 恵 子
主事 あいば いくえ 饗庭 郁 恵
パート職員 ふじもと みちよ 藤本 美 千 代
椎茸菌床生産係
パート職員 えんぐち ちはる 圓口 千 春

## 台風、強風対策大丈夫ですか？

台風などの強風により倒れるおそれのある住宅敷地内の立木や、成長しすぎて通行に妨げのある立木を専門の技術者を派遣して安全に伐木いたします。組合にお気軽にご相談ください。現地確認のうえ、お見積りします。

## 組合員の名義変更はお済みですか？

組合員の名義人となっておられる方から、世代交代や相続などにより他の方に名義を変更される場合や、住所の変更がございましたら、変更の手続きをお願いいたします。

組合にお越しいただける場合は出資証券と印鑑をご持参ください。また、出資証券が見当たらない場合など、ご不明な点がございましたら組合までお問合せください。

## 高島市森林組合

HP <https://takashima-forest.jp/>

〒520-1412 滋賀県高島市朽木野尻 364-2

電話 0740-38-2214

FAX 0740-38-3277

メール [info@takashima-forest.jp](mailto:info@takashima-forest.jp)



高島市森林組合  
HP



Instagram  
@takashima\_forest